



部落問題講演会で

学びました!

12月9日(木)

部落問題講演会で、「人権教育の原点」と題して、福田和博さんの話を聞きました。

福田さんは、「差別の現状から深く学ぶ」ことが重要と話され、差別の現実そのものと現実の認識は違うこと、差別は差別をする人がいるから起きるものだということを説明されました。

また、被差別側からは差別



福田和博さん

する側の視点を理解することは難しいと話されました。その上で、自身の教員時代の経験から教えるということには、「学ぶ」ことが前提であり、生徒に教える時は、まず生徒が何に困っていて何に腹を立てているのか、何を楽しんでるか「知る」ことから「教える」ことが始まると話されました。人権教育も同じなのです。

識字教室が始まったのも、字が読めない人のためだけでなく、読める人が問題として考えていった過程があったそうです。以前ならJRの駅名の看板は漢字表記のみでしたが、それだと字が読めない人は目的地にたどり着けません。読めないことがその人を抑圧するような社会であってはならないと強調されました。人権教育とは何か、再度考えさせられた講演でした。



職員等人権同和問題

研修会を開催しました

1月20日(木)

ほのほのひだまりホールを会場として、鳥取市人権情報センター研究員の福壽みどりさんを講師に研修を行いました。



福壽みどりさん

講演では、土地差別や結婚差別につながる人々の意識について、各地の意識調査や実態調査の結果を照らし合わせながら、その実態を学びました。

また、「寝た子を起すな」という考え方について、「もし差別について知ったらあな

たは差別をするのか?差別はもうないという意見もあるが、自分が知らないからないわけでもなく、自分が知らないからないわけでもない。なくすために自分ができることは何かを考えてみてほしい」と話されました。

参加者からは「部落差別について、自分ができるように行動していくか考えるきっかけとなった」「部落差別はまだ根深く、知ることの大切さを感じた。差別を目の前にしたとき、自分に何ができるか考えていきたい」などの意見が出ていました。



会場の様子

問合せ先

役場総務課

☎ 75-4111